

# 研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

大学ラグビー選手の腰痛と身体機能変化の関連

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2019年度から2025年度までに2年連続で本学スポーツ運動科学研究所でメディカルチェックを行なった大学ラグビー選手を対象とします。

## 2. 研究目的・方法

ラグビーはタックルなどを行うため、腰部への負担が大きいスポーツであり、腰痛の発生率が高いです。さらに腰痛発症後は競技復帰までに日数を要することもあり、ラグビー選手の腰痛の危険因子を検討することは重要です。先行研究では、ラグビー選手の腰痛の危険因子として、大腿四頭筋やハムストリングスの柔軟性低下が報告されています。また、高校バスケット選手では股関節内旋可動域が腰痛の危険因子であること、腰痛の予防には胸郭回旋・伸展可動域が重要であることなどが報告されています。このように腰痛の危険因子はいくつか報告されていますが、実際に腰痛が改善した選手の身体機能の変化は不明です。腰痛が改善した選手の身体機能の変化を明らかにできれば、腰痛予防のトレーニングやリハビリテーションに有用であると考えております。本研究の目的は、大学ラグビー選手における腰痛が改善した選手の身体機能変化を明らかにすることです。

## 3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027年 3月 31日まで

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

2019年度から2025年度までに2年連続で本学スポーツ運動科学研究所でメディカルチェックを行なった大学ラグビー選手のうち、選手背景（身長、体重、競技歴、ポジション）、体組成、レントゲン・MRI（上位胸郭運動量、腰椎前弯角、Pfirrmann分類）、問診票から腰痛の有無、体幹回旋可動域、上体そらし（自動・上肢支持）、FFD、SLR、HBD、股関節回旋可動域、背筋力、体幹筋持久力（伸展、屈曲、側屈）を調査項目とします。

## 5. 外部への試料・情報の提供

本研究で取得した診療情報は研究責任者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等の個人を識別できる情報を削除し、研究用のIDを付与することで符号化します。符号化した診療情報は昭和医科大学スポーツ運動科学研究所内の外部から切り離されたコンピューター内にそれぞれ保存され、研究者のみがアクセス、閲覧できるようにします。

## 6. 研究組織

研究責任者 昭和医科大学保健医療学部 加賀谷善教

## 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院

氏名：熊谷尚

住所：神奈川県横浜市青葉区藤が丘2丁目1番1号

電話番号：045-974-2221/3636（内線）